

I 患者情報

1 総括及び全数把握対象疾患

- ・ 一類～五類感染症
- ・ 指定感染症
- ・ 獣医師が届けを行う感染症

2 定点把握対象疾患

- ・ 週報・月報対象疾患「五類感染症」

3 鹿児島県の風しん予防対策

- ・ 鹿児島県の妊婦における抗体検査の調査事業

1 総括 及び

全数把握対象疾患

- (1) 一類感染症
- (2) 二類感染症
- (3) 三類感染症
- (4) 四類感染症
- (5) 五類感染症
- (6) 指定感染症
- (7) 獣医師が届けを行う感染症の発生状況

総括及び全数把握対象疾患に関する動向

(2020年1月～12月)

鹿児島県感染症発生動向調査委員会委員長

鹿児島県医師会長

池田 琢哉

【トピックス】

○新型コロナウイルス感染症の流行

1月：(全国) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染症が感染症法上の指定感染症に指定

国は、中華人民共和国で発生した新型コロナウイルス感染症の海外における発生状況等を踏まえ、同感染症を一～三類感染症と同等の措置が可能となる「指定感染症」(二類感染症相当)に指定。重症急性呼吸器症候群 (SARS) や中東呼吸器症候群 (MERS) は、現在二類感染症に分類されているが、当初は指定感染症として対策が行われてきた。

初の国内感染例確認

厚生労働省は、1月28日に発生した感染例について、国内で人から人に感染したとみられる初の事例(日本人の感染確認も初めて)だと発表した。

3月：(本県) 県内初の新型コロナウイルス感染症の陽性例確認

第13週の3月26日に県内初の陽性患者を、第14週目に2例目、3例目の陽性例が相次いで確認された。

4～5月：(全国・本県) 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令

第15週の4月7日、国の新型コロナウイルス感染症対策本部は、「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」を発令した(実施期間：令和2年4月7日～5月6日、実施区域：埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・大阪府・兵庫県・福岡県)。

第16週の4月16日、緊急事態宣言は本県を含む全国に拡大され、本県では5月14日、全国で5月25日に解除された。

6～7月：(本県) 県内で初のクラスター発生

第27週に本県で初めてクラスターが発生。当該週だけで87人の届出があった。その後、関連の感染者は116人に及んだ。

今回の集団感染事例ではクラスター対策班が現地に入り、感染源、感染経路、データの集計・分析が行われた。

7月には、介護施設(9人)、高齢者施設(15人)、離島の飲食店(56人)でのクラスターが相次いで発生した。

11月：(本県) 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えた体制整備

これまで発熱患者の診療と検査を担ってきた帰国者・接触者外来を廃止した。11月1日からは、かかりつけ医等の身近な医療機関が診療・検査を行う、「診療・検査医療

機関」(813 機関)を県が指定。

保健所が担ってきた相談業務を地域の医療機関が受け持ち、保健所の負担軽減を図った。

12月：(本県) 県内のコロナ患者届出総数 966 例

県内の新型コロナウイルス感染症は、令和2年12月27日時点で届出総数が966例となった。

第50週の新型コロナウイルス感染症患者の届出は150例にのぼり、これまでの最高の届け出数を更新した。

【定点報告疾患の発生状況】

定点把握対象疾患(対象25疾患)では、突発性発しん、性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマの3疾患が前年度より増加となった。

突発性発しんは1,355人の報告があり、令和元年より112人多かった。第23週にピークが見られ、鹿児島市、川薩、始良の順に多く、年齢別では、1歳(54.5%)、6～11ヵ月(29.8%)、2歳(9.7%)で、1歳以下が約86%を占めた。

性器クラミジア感染症の報告数は、453人で、令和元年度より10人多かった。月別報告数は、9月が最も多く、概ね例年通りの推移であった。年齢別では、20～24歳(25.6%)、25～29歳(19.4%)、30～34歳(18.1%)の順に多かった。

尖圭コンジローマの報告数は、94人で、令和元年度より8名多かった。月別報告数は、6月が最も多く、年齢別では、25～29歳(23.4%)、20～24歳(23.4%)、40～44歳(10.6%)の順に多かった。

なお、RSウイルスは3,086人の報告があり、令和元年度より50人少なかったが、例年になく第34週から年末まで増加傾向が続いた。全国的に、流行が見られなかったが、本県では、秋から冬にかけて流行が見受けられた。

インフルエンザは、11,164人の報告があり、県内の直近10年の年間報告数において、最も少ない報告数であった。保健所別では、徳之島、名瀬、始良の順に多く、年齢別では、10～14歳(17.5%)、30～39歳、40～49歳(それぞれ6.9%)、6歳(6.3%)の順に多かった。

【全数把握対象疾患の概要】

感染症発生動向調査は、全数把握対象85疾患および定点把握対象疾患25疾患について調査を行っている。

○一類感染症の届出はなかった

○二類感染症の届出は、結核のみであった。届出数は242例で、前年(352例)に比べ110例少ない届出であった。病型は、肺結核が126例で最も多かった。年齢別では80代以上が98例で最も多く、70代が37例、60代が36例の順であった。

○三類感染症では、腸管出血性大腸菌感染症が41例(患者29例、無症状病原体保有者で、12例)で、前年(54例)より13例減少した。月別では2月が15例、1月12例、5月が4例で、血清型別では026が29例、0157が5例、0103・0111・0121・0145がそれぞれ1例であった。年齢別では4歳が7例、3歳が6例、30～39歳(5例)の順に多く、保健所別では伊集院が14例で最も多く、鹿児島市10例、志布志8例であった。

○四類感染症では、つつが虫病 92 例、日本紅斑熱 18 例、レジオネラ症 16 例、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、A 型肝炎がそれぞれ 3 例、E 型肝炎が 2 例であった。

つつが虫病は前年 (66 例) より 26 例多かった。都道府県別では前年に引き続き全国 1 位であった。日本紅斑熱は前年と同数であった。都道府県別では、6 番目に多かった。レジオネラ症は前年 (17 例) より 1 例少なかった。重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は、前年より 5 例減少し 3 例 (全例女性) であった。年齢別では、80 歳以上 (2 例)、50 歳 (1 例) の順であった。A 型肝炎は前年 (2 例) より 1 例多く、3 例とも経口感染が推定されている。E 型肝炎は 2 例であった (前年の届出はなし)。感染原因は、イノシシ摂食による経口感染が推定されている。

○五類感染症では、百日咳 (83 例)、梅毒 (38 例)、侵襲性肺炎球菌感染症 (26 例)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (24 例)、急性脳炎 (14 例)、後天性免疫不全症候群 (12 例)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (11 例)、アメーバ赤痢 (5 例)、破傷風、クロイツフェルト・ヤコブ病 (それぞれ 4 例)、水痘 (入院例に限る)、播種性クリプトコックス症、急性弛緩性麻痺 (それぞれ 3 例)、侵襲性インフルエンザ菌感染症、ウイルス性肝炎 (E 型・A 型を除く) (それぞれ 2 例)、風しん (1 例) の届出があった。

本感染症発生動向事業定点医療機関、並びに全数把握対象疾患のご報告をいただいた医療機関に感謝申し上げますとともに、今後も感染症の早期発見と早期治療に努めることで、地域への感染症防止に尽力していきたい。

(1) 一類感染症の発生状況

発生報告なし

(2) 二類感染症の発生状況

令和2年の県内における二類感染症の届出は、結核が242例(男性117例, 女性125例)で、令和元年の352例に比べ、110例少ない届出であった(表1-1-1, 表1-1-2, 図1-1)。病型では、肺結核(126例), 無症状病原体保有者(71例), その他(45例)で、年齢別では、80歳以上(98例), 70歳代(37例), 60歳代(36例)の順に多い届出数であった。

表1-1-1 月別発生状況

| 月 | 報告数 | 無症状病原体保有者(再掲) |
|----|-----|---------------|
| 1 | 19 | 9 |
| 2 | 22 | 5 |
| 3 | 20 | 6 |
| 4 | 17 | 5 |
| 5 | 24 | 10 |
| 6 | 25 | 12 |
| 7 | 19 | 5 |
| 8 | 19 | 4 |
| 9 | 16 | 5 |
| 10 | 22 | 5 |
| 11 | 22 | 3 |
| 12 | 17 | 2 |
| 合計 | 242 | 71 |

表1-1-2 保健所別届出状況

| 保健所名 | 報告数 | 無症状病原体保有者(再掲) |
|------|-----|---------------|
| 鹿児島市 | 115 | 36 |
| 指宿 | 1 | 1 |
| 加世田 | 8 | 1 |
| 伊集院 | 1 | 0 |
| 川薩 | 19 | 5 |
| 出水 | 6 | 1 |
| 大口 | 7 | 4 |
| 始良 | 19 | 1 |
| 志布志 | 6 | 3 |
| 鹿屋 | 32 | 14 |
| 西之表 | 1 | 0 |
| 屋久島 | 3 | 1 |
| 名瀬 | 17 | 4 |
| 徳之島 | 7 | 0 |
| 合計 | 242 | 71 |

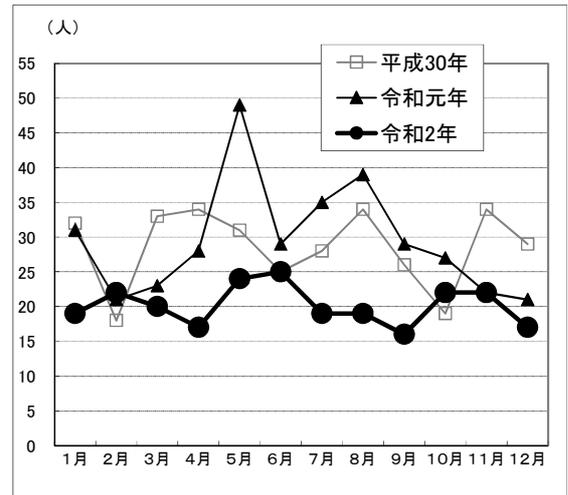


図1-1 平成30～令和2年の結核発生状況

(3) 三類感染症の発生状況

令和2年の県内における三類感染症の発生状況は、腸管出血性大腸菌感染症41例(図1-2-1, 図1-2-2, 図1-2-3, 図1-2-4, 表1-2-1, 表1-2-2, 表1-2-3)であった。

○腸管出血性大腸菌感染症

県内における腸管出血性大腸菌感染症の届出状況は、前年(54例)より13例少ない41例(患者29例, 無症状病原体保有者12例)であった。月別では2月(15例), 1月(12例), 5月(4例)の順に(図1-2-1, 図1-2-3), 血清型別ではO26(29例), O157(5例), 型不明(3例)の順に多かった。(図1-2-2, 図1-2-4, 表1-2-1)。年齢別では、4歳(7例), 3歳(6例), 30～39歳(5例)の順に多く(表1-2-2), 保健所別では、伊集院(14例), 鹿児島市(10例), 志布志(8例)からの報告が多かった(表1-2-3)。

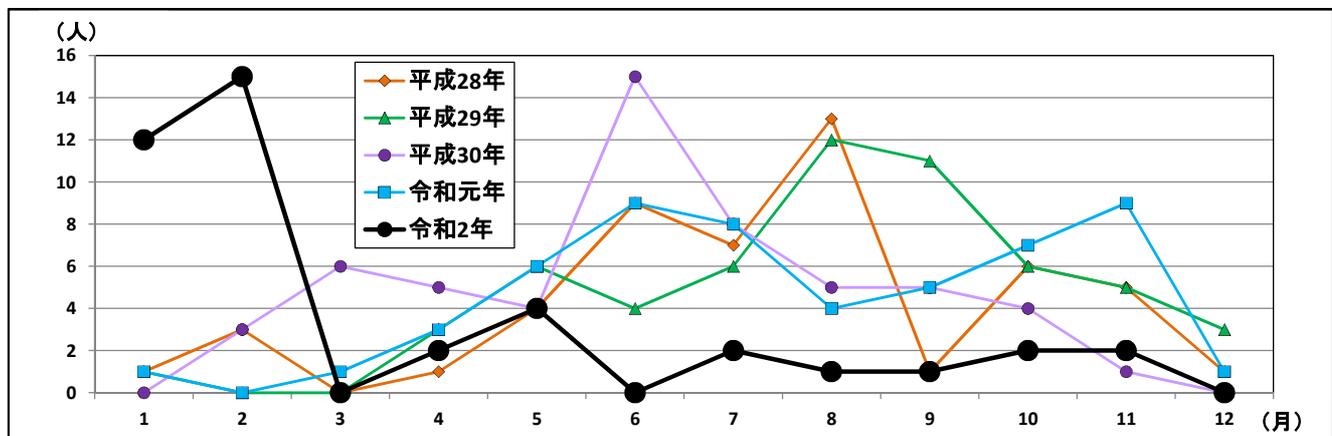


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症の年別月別患者発生数

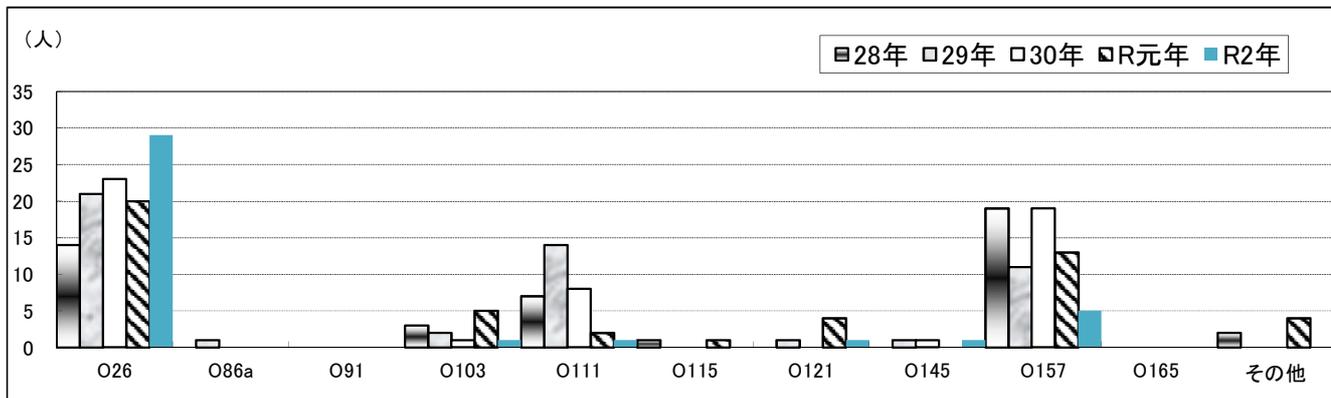


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症の血清型別

表1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症の年別血清型

| 年 | 型別 | O26 | O86a | O91 | O103 | O111 | O115 | O121 | O145 | O157 | O165 | その他 | 不明 | 合計 |
|-------|----|-----|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----|----|-----|
| 平成23年 | | 49 | 0 | 1 | 9 | 3 | 0 | 0 | 4 | 32 | 0 | 2 | 1 | 101 |
| 平成24年 | | 12 | 0 | 2 | 2 | 61 | 0 | 2 | 1 | 30 | 1 | 4 | 2 | 117 |
| 平成25年 | | 14 | 0 | 0 | 6 | 5 | 1 | 3 | 0 | 25 | 0 | 8 | 3 | 65 |
| 平成26年 | | 25 | 0 | 0 | 3 | 9 | 0 | 2 | 1 | 18 | 3 | 4 | 3 | 68 |
| 平成27年 | | 12 | 0 | 0 | 1 | 6 | 1 | 2 | 0 | 20 | 0 | 2 | 5 | 49 |
| 平成28年 | | 14 | 0 | 0 | 3 | 7 | 1 | 0 | 0 | 19 | 0 | 2 | 5 | 51 |
| 平成29年 | | 21 | 1 | 0 | 2 | 14 | 0 | 1 | 1 | 11 | 0 | 0 | 6 | 57 |
| 平成30年 | | 23 | 0 | 0 | 1 | 8 | 0 | 0 | 1 | 19 | 0 | 0 | 4 | 56 |
| 令和元年 | | 20 | 0 | 0 | 5 | 2 | 1 | 4 | 0 | 13 | 0 | 4 | 5 | 54 |
| 令和2年 | | 29 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 5 | 0 | 0 | 3 | 41 |
| 合計 | | 219 | 1 | 3 | 33 | 116 | 4 | 15 | 9 | 192 | 4 | 26 | 37 | 659 |

表1-2-2 令和2年における腸管出血性大腸菌感染症の性別及び年齢別報告数

| 年齢別 | ～1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10～14歳 | 15～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70歳以上 | 合計 | |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|----|--|
| 性別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 0 | 1 | 4 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | |
| 女 | 3 | 0 | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 23 | |
| 合計 | 3 | 1 | 6 | 7 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 3 | 0 | 3 | 5 | 2 | 2 | 0 | 1 | 41 | |

表1-2-3 令和2年における腸管出血性大腸菌感染症の保健所別報告数

| 保健所 | 鹿児島市 | 指宿 | 加世田 | 伊集院 | 川薩 | 出水 | 大口 | 始良 | 志布志 | 鹿屋 | 西之表 | 屋久島 | 名瀬 | 徳之島 | 合計 |
|-----|------|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|----|-----|----|
| 報告数 | 10 | 0 | 2 | 14 | 3 | 1 | 0 | 0 | 8 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 41 |

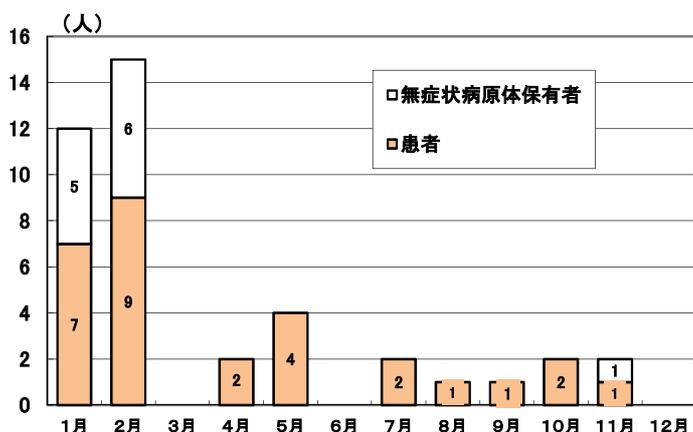


図1-2-3 令和2年における腸管出血性大腸菌感染症の月別・病型別報告数

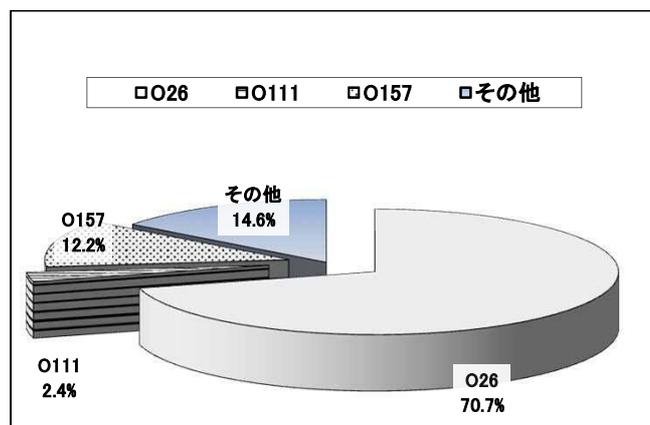


図1-2-4 令和2年における腸管出血性大腸菌感染症の血清型別割合

(4) 四類感染症の発生状況

令和2年の県内における四類感染症は、つつが虫病(92例)、日本紅斑熱(18例)、レジオネラ症(16例)、重症熱性血小板減少症候群、A型肝炎(それぞれ3例)、E型肝炎(2例)であった(表1-3)。つつが虫病及び日本紅斑熱の年次別報告数推移を図1-3に示した。

表1-3 四類感染症の発生状況

| 疾患名 | 年 | 平成 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 令和 | 2 |
|-------|--------------------|----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 23 | | | | | | | | 元 | |
| 四類感染症 | つつが虫病 | 73 | 48 | 38 | 41 | 67 | 77 | 66 | 89 | 66 | 92 |
| | 日本紅斑熱 | 9 | 17 | 14 | 14 | 11 | 22 | 18 | 22 | 18 | 18 |
| | レジオネラ症 | 7 | 5 | 3 | 11 | 4 | 19 | 7 | 8 | 17 | 16 |
| | 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) | | | 5 | 4 | 6 | 4 | 11 | 9 | 8 | 3 |
| | A型肝炎 | 4 | 2 | 1 | 34 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 |
| | E型肝炎 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 2 |
| | レプトスピラ症 | 1 | 3 | 3 | 0 | 1 | 5 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| | Q熱 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | デング熱 | 1 | 1 | 5 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| | Bウイルス病 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| | ライム病 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計 | 95 | 76 | 69 | 105 | 91 | 131 | 104 | 132 | 119 | 134 |

○ つつが虫病

県内におけるつつが虫の発生状況は、前年(66例)より26例多い92例であった。都道府県別の報告数(523例)では、前年に引き続き全国第1位であった(2位千葉県66例、3位宮崎県57例)。性別では、男性(53例)、女性(39例)で、月別では、12月(54例)、1月(21例)、11月(14例)の順に多かった。年齢別では、60歳代(35例)、70歳代(27例)、80歳以上(18例)の順に多く、届出受理保健所別では、始良(23例)、鹿屋(20例)、鹿児島市(20例)の順であった。

○ 日本紅斑熱

県内における日本紅斑熱の発生状況は、前年(18例)と同数であった。都道府県別の報告数(421例)では、広島県(94例)、三重県(61例)、島根県(29例)、和歌山県(28例)、高知県(23例)の順に多く、本県は長崎県と同数で6番目に多かった。性別では、男性が3例、女性が15例で、月別では、10月(9例)、6月、8月、11月(それぞれ2例)、5月、9月、12月(それぞれ1例)の順に多かった。年齢別では、70歳代、80歳代以上(それぞれ6例)、40歳代、60歳代(それぞれ3例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿屋(14例)、始良(2例)、川薩、志布志(それぞれ1例)の順であった。

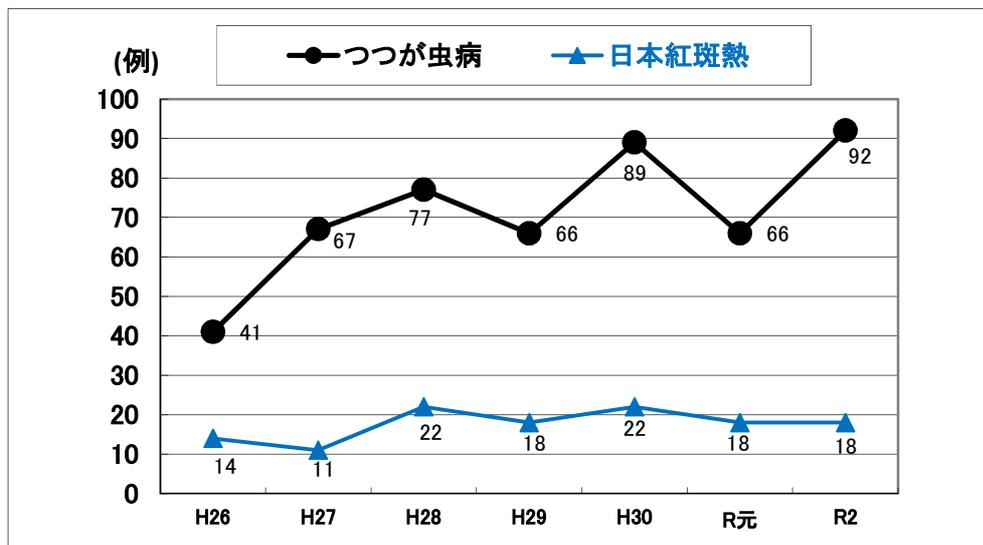


図1-3 つつが虫病及び日本紅斑熱の年別発生状況

○ レジオネラ症

県内における届出状況は、前年(17例)より1例少ない16例(男性11例, 女性5例)であった。

病型別では、肺炎型が14例, ポンティアック型が1例, 無症状病原体保有者1例であった。月別では、6月, 9月, 10月, 11月(それぞれ3例), 1月, 3月, 4月, 5月(それぞれ1例)であった。年齢別では、80歳代以上(6例), 60歳代, 70歳代(それぞれ4例), 50歳代(2例)の順に多かった。届出受理保健所別では、鹿児島市(4例), 出水, 大口(それぞれ3例), 始良, 鹿屋(それぞれ2例)の順であった。

○ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

県内における届出状況は、前年(8例)より5例少ない3例(女性3例)であった。月別では、2月, 5月, 6月(それぞれ1例)であった。年齢別では、80歳以上(2例), 50歳代(1例)の順に多かった。

○ A型肝炎

県内における届出状況は、前年(2例)より1例多い3例(男性2例, 女性1例)であった。

月別では、1月, 4月, 8月(それぞれ1例)であった。年齢別では、80歳代以上(2例), 50歳代(1例)の順に多かった。届出受理保健所別では、鹿児島市(2例), 川薩(1例)であった。感染原因としては、3例とも経口感染が推定されている。

○ E型肝炎

県内における届出状況は、前年は届出はなかったが、本年は2例(男性2例)であった。月別では、1月, 2月(それぞれ1例)であった。年齢別では、60歳代, 80歳以上(それぞれ1例)であった。届出受理保健所別では、川薩, 鹿屋(それぞれ1例)であった。感染原因としては、2例ともイノシシ摂食による経口感染が推定されている。

(5) 五類感染症の発生状況

令和2年の県内における五類感染症の報告は241例で、百日咳(83例)、梅毒(38例)、侵襲性肺炎球菌感染症(26例)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(24例)、急性脳炎(14例)、後天性免疫不全症候群(12例)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(11例)、アメーバ赤痢(5例)、破傷風、クロイツフェルト・ヤコブ病(それぞれ4例)、水痘(入院例に限る)、播種性クリプトコックス症、急性弛緩性麻痺(それぞれ3例)、侵襲性インフルエンザ菌感染症、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)(それぞれ2例)、風しん(1例)の届出があった。(表1-4)。

表1-4 五類感染症の発生状況 (報告数順)

| 疾患名 | 年 | 平成 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 令和 | 2 |
|--------------------|---|----|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 23 | | | | | | | | 元 | |
| 百日咳 | | | | | | | | | 153 | 728 | 83 |
| 梅毒 | | 25 | 6 | 7 | 7 | 10 | 18 | 21 | 51 | 55 | 38 |
| 侵襲性肺炎球菌感染症 | | | | 12 | 24 | 25 | 17 | 24 | 33 | 31 | 26 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 | | | | | 1 | 13 | 15 | 10 | 25 | 27 | 24 |
| 急性脳炎 | | 4 | 8 | 0 | 7 | 11 | 17 | 21 | 26 | 29 | 14 |
| 後天性免疫不全症候群 | | 13 | 8 | 12 | 12 | 9 | 11 | 18 | 8 | 13 | 12 |
| 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | | 0 | 3 | 2 | 1 | 6 | 3 | 3 | 3 | 7 | 11 |
| アメーバ赤痢 | | 2 | 7 | 5 | 6 | 7 | 7 | 7 | 7 | 6 | 5 |
| 破傷風 | | 5 | 4 | 4 | 6 | 5 | 4 | 5 | 8 | 5 | 4 |
| クロイツフェルト・ヤコブ病 | | 3 | 3 | 4 | 4 | 10 | 4 | 6 | 3 | 3 | 4 |
| 水痘(入院例に限る) | | | | | 4 | 4 | 3 | 5 | 3 | 5 | 3 |
| 播種性クリプトコックス症 | | | | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 | 1 | 2 | 3 |
| 急性弛緩性麻痺 | | | | | | | | | 3 | 3 | 3 |
| 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | | | | | 1 | 4 | 0 | 2 | 8 | 8 | 2 |
| ウイルス性肝炎(E型・A型を除く) | | 1 | 2 | 5 | 8 | 4 | 6 | 4 | 5 | 3 | 2 |
| 風しん | | 2 | 4 | 386 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 1 |
| バンコマイシン耐性腸球菌感染症 | | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 麻しん | | 3 | 1 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| クリプトスポリジウム症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 侵襲性髄膜炎菌感染症 | | | | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 薬剤耐性アシネトバクター感染症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| ジアルジア症 | | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 59 | 48 | 437 | 86 | 111 | 110 | 134 | 345 | 929 | 235 |

○百日咳

百日咳は、前年(728例)より645例少ない83例(男性32例、女性51例)の報告があり、月別では3月(25例)、2月(18例)、1月(9例)の順に多かった。

年齢別では、10～14歳(28例)、5～9歳(26例)、0歳、20歳代(それぞれ7例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(24例)、大口(23例)、指宿(7例)の順であった。

○梅毒

県内における届出状況は、前年(55例)より17例少ない38例(男性28例、女性10例)であり、月別では1月(9例)、3月、4月(それぞれ6例)、6月(4例)の順に多かった。

病型別では、早期顕症Ⅱ期(16例)、早期顕症Ⅰ期(12例)、無症状病原体保有者(9例)、晩期顕症梅毒(1例)の順に、年齢別では40歳代(12例)、30歳代(10例)、20歳代(9例)、60歳代(2例)、10歳代、70歳以上(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所としては、鹿児島市(24例)、始良(5例)、川薩、出水(それぞれ2例)、伊集院、大口、鹿屋、名瀬、徳之島(それぞれ1例)の順であった。

○侵襲性肺炎球菌感染症

県内における届出状況は、前年(31例)より6例少ない26例(男性15例、女性11例)であり、月別では1月(6例)、2月(5例)、3月、4月(それぞれ3例)の順に多かった。年齢別では70歳以上(10例)、60歳代(8例)、0～9歳、40歳代(それぞれ3例)、50歳代(2例)の順に多く、届出受理保健所としては鹿児島市(14例)、鹿屋(5例)、徳之島(4例)、出水、指宿、名瀬(それぞれ1例)の順であった。

○カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

県内における届出状況は、前年(27例)より3例少ない24例(男性13例,女性11例)であり,月別では10月(6例),6月(5例),9月(3例)の順に多かった。年齢別では,70歳以上(18例),60歳代(4例),50歳代(2例)の順に多く,届出受理保健所別では,鹿児島市(16例),鹿屋(6例),川薩,出水(それぞれ1例)であった。

○急性脳炎

県内における届出状況は,前年(29例)より15例少ない14例(男性9例,女性5例)であり,月別では6月(3例),1月,5月,9月(それぞれ2例),2月,7月,10月,11月,12月(それぞれ1例)であった。年齢別では,9歳以下(10例),10歳代(3例),20歳代(1例)の順に多く,届出受理保健所別では,鹿児島市(13例),鹿屋(1例)の順であった。

○後天性免疫不全症候群

県内における届出状況は,前年(13例)より1例少ない12例(全て男性)であり,月別では1月,2月,9月(それぞれ2例),3月,6月,7月,8月,11月,12月(それぞれ1例)であった。

病型別では患者,無症状病原体保有者ともに6例であった。年齢別では,30歳代(4例),40歳代(3例),60歳代(2例),20歳代,50歳代,70歳以上(それぞれ1例)の順に多く,届出受理保健所としては,鹿児島市(10例),始良(2例)の順であった。

○劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内における届出状況は,前年(7例)より4例多い11例(男性3例,女性8例)で,月別では8月(3例),10月,12月(それぞれ2例),1月,2月,3月,5月(それぞれ1例)であった。年齢別では70歳以上(9例),60歳代(2例)の順に多く,届出受理保健所別では,鹿児島市(8例),徳之島(3例)であった。

○アメーバ赤痢

県内における届出状況は,前年(6例)より1例少ない5例(男性4例,女性1例)で,月別では4月,5月,6月,9月,11月(それぞれ1例)であった。年齢別では40歳代(2例),30歳代,50歳代,70歳以上(それぞれ1例)の順に多く,届出受理保健所別では,鹿児島市(3例),始良,鹿屋(それぞれ1例)であった。

○破傷風

県内における届出状況は,前年(5例)より1例少ない4例(男性3例,女性1例)で,月別では11月(2例),4月,5月(それぞれ1例)であった。年齢別では全てが70歳以上であった。届出受理保健所別では,鹿児島市(3例),志布志(1例)であった。

○クロイツフェルト・ヤコブ病

県内における届出状況は,前年(3例)より1例多い4例(男性3例,女性1例)で,月別では1月,4月,8月,9月(それぞれ1例)であった。年齢別では70歳以上(3例),60歳代(1例)の順に多く,届出受理保健所別では,鹿児島市(2例),川薩,始良(それぞれ1例)の順であった。

(6) 指定感染症の発生状況

○ 新型コロナウイルス感染症

令和2年の県内における新型コロナウイルス感染症の届出は、3月26日に県内初の感染事例が発生し、その後、飲食店、介護福祉施設、高齢者福祉施設、医療機関等でのクラスター（患者集団）が十数カ所で発生し、1016例（男性536例、女性480例）の届出となった。年齢別では、20歳代（182例）が最も多く、次いで、40歳代（166例）、30歳代（159例）、50歳代（128例）、60歳代（109例）の順に多い届出数であった（図1-4-1）。月別では、12月（387例）、7月（241例）、11月（159例）、8月（110例）、9月（55例）の順に多い届出数であった（図1-4-2）。本届出数は令和2年12月31日時点での報道発表の数値です。

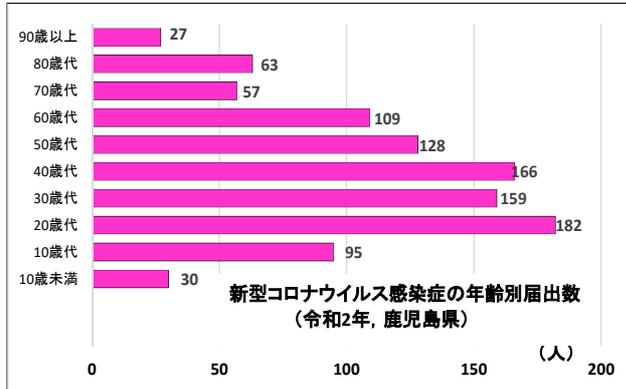


図1-4-1 新型コロナウイルス感染症の年齢別届出

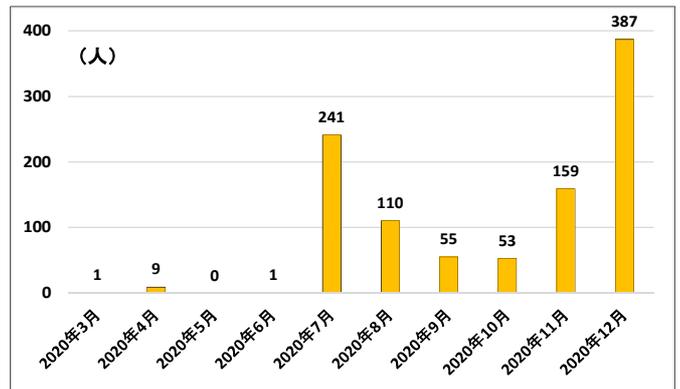


図1-4-2 新型コロナウイルス感染症の月別届出数

(7) 獣医師が届けを行う感染症の発生状況

県内において獣医師が届けを行う感染症の報告例はなかった。